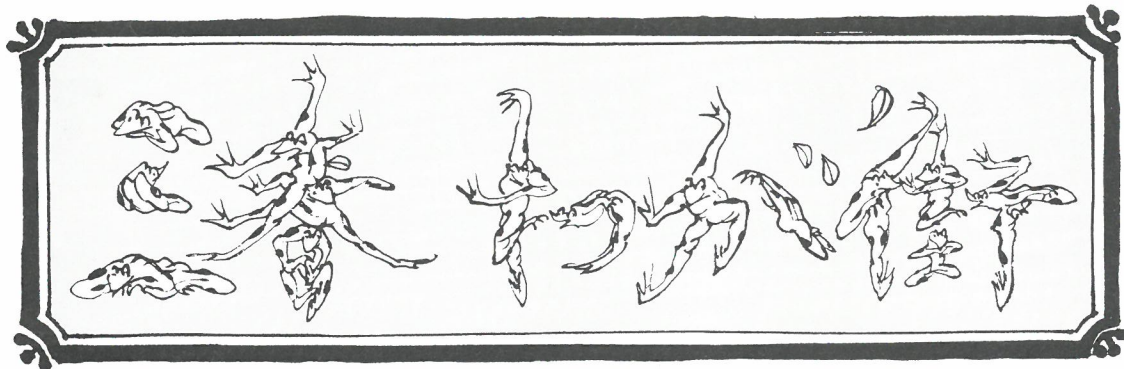




■コミュニティだより VOL.19

特集 ふれあいのあるまちをめざして
～まちづくりに関する町民意識調査～

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会



▲三春中学校前の交差点にて

顔

交通指導三十五年。

モットーは、

「一日一日を気分良く暮らすこと」

岸 藤一さん

三春に住んでいる人なら
たいてい朝の通勤、通学の
時間に町角で交通整理をする
岸さんの姿に出会ったこ
とがあるでしょう。

三春小や三春中の子供た
ちも毎朝元気に岸さんに挨拶
しながら通学しています。

岸さんは大正六年生まれ。
山形県尾花沢の出身で、三
春に来てもう五十五年。二
十年程前までは渋池で桶屋
さんの仕事をしていました。

岸さんの交通指導員とし
ての歴史は三十五年にもお

よびますが、その他に消防
や、中学校の宿直代行など
も長く務められました。
特に、交通教育専門員と
しては、この十一年近く、
ほとんど休みなしで街頭に
立ってくださっています。
以前、交通整理の最中に

トラックの下敷きになって
しまうという大事故にあっ
たこともありました。幸い
ヘルメットをかぶっていた
ため一命をとりとめました
が、交通事故の恐ろしさを
身をもって体験したと語っ
ておられました。

岸さんに交通整理のコツ
を伺ったところ、「確かに交
通整理には上手、下手があ
るが、かつこいのが必ず
しも上手というわけではな
い。誰が見てもわかりやす
いのが本当に上手な交通整
理であって、あまり速くやっ
たのでは見えない。車の中
の運転手からも良く見える
ようにゆっくりやるように
心掛けています」とのこと
でした。

交通指導の面で皆さんに
よく知られている岸さん
ですが、他にも実に様々な分
野で活躍されています。
例えば門松作り。昨年も役
場や公民館を始め、数多く
の門松を頼まれて作ったそ
うです。他にもお寺の祭壇
や彼岸花の制作まで各方面
から頼りにされています。

岸さんにまちづくりにつ
いて伺いました。

「三春町は事件や事故がな
く、とてもいい町だ。町も
だんだんきれいになってき
たし、地道にボランティア
活動をしている人も何人も
いる。誰もがまちづくりに
ついて考えてはいるし、協
力してもらってはいるが、
まちづくりはひとりふたり
でできるものじゃない。もっ

ともしっかり町にしてい
くには、皆で協力する必要
がある」とのこと。本当にそ
の通りだと思いました。

岸さんの朝はとても早く、
だいたい四時頃には目がさ
めるそうです。

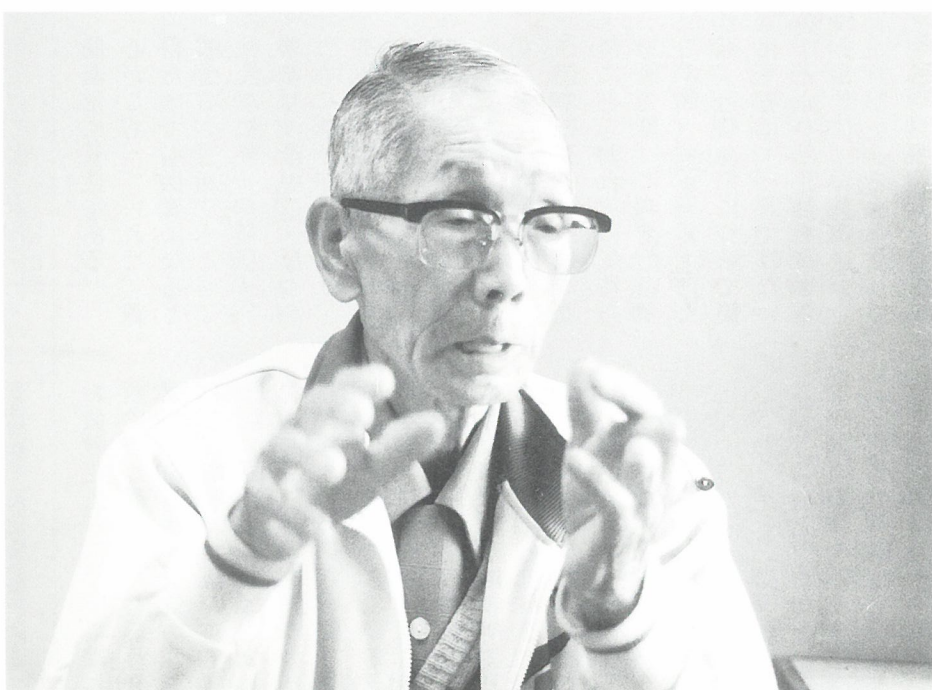
「新しい空気を人より多く
吸っているから得してる」
とおっしゃる岸さんに健康
法を伺いました。

「風邪をひかないためには
朝起きた時に必ずコップ一
杯の水を飲むこと。塩をひ
とつまみ入れることもある。
また、自分の体を良く知っ
て、手入れをすること。」

それと、気持ちの持ち方
としては一日一日を気分良
く暮らすこと。一日に何か

ひとつでも勉強すれば自分
のためになると考える。」
ことだそうです。皆さんも
真似されてみてはいかがでしょうか。

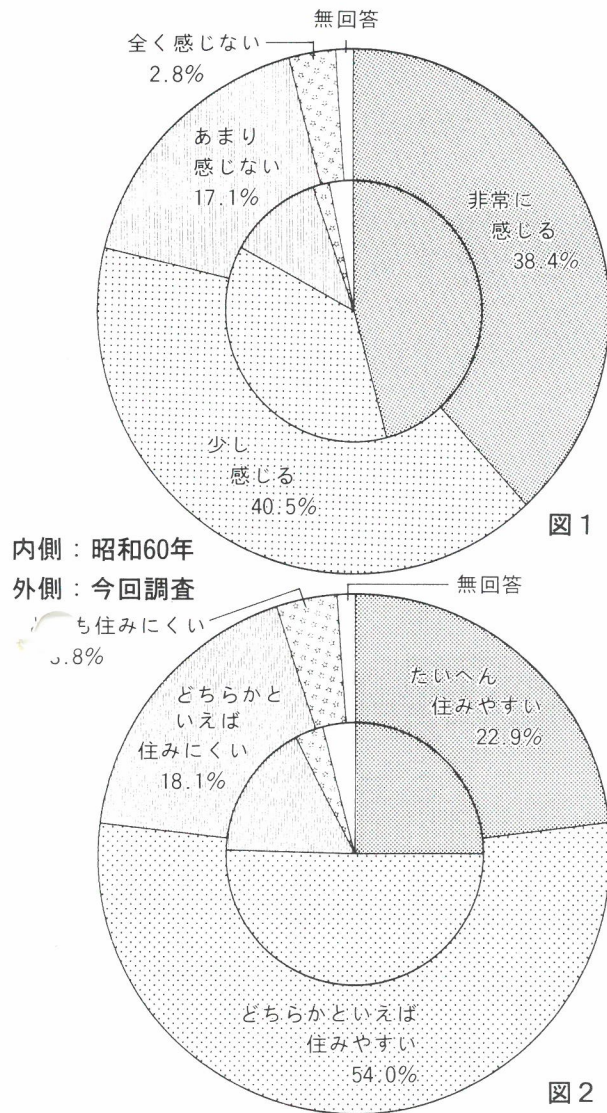
最後に、「いろいろな仕事
を頼まれて大変じゃないで
すか」とお聞きしたところ、
「誰に頼まれても、自分で
できるものはやってあげる。
できないものは、できない
とはっきり断るが、かわり
に必ず専門の人を紹介して
あげる。できないことを頼
まれた時に、安請け合いし
てはいけません。返事だけよ
い人では役に立たないんだ
よ。」との答えが返ってきま
した。



特

集

ふれあいのあるまちをめざして ～まちづくりに関する町民意識調査～



三春が住みやすい七七%

『あなたは三春町に愛着を感じますか』との設問に対し、七九%の人が「愛着を感じる」と回答しています(図1参照)。当協会では同様の質問内容で十年前にもアンケート調査を実施していますが、十年前の結果では八三%が「愛着を感じる」と答えていたのに対し、今回はわずかながら減少しています。

一方、『あなたの住んでる地区は、住みやすいと思いますか』という設問に対しては、「住みやすい」と回答した人が全体の七七%あり(図2参照)、十年前の同様の質問に対する結果と比べてみると、十年前は七五%だったのに対し、今回のアンケート調査では二ポイント上昇という結果が出ています。

次に、『あなたは近所の人々とのようなおつきあいをしていますか』という設問に対しては、約半数の人が「時々世間話をする」と回

八割が三春町に愛着 近所付き合い、あなたの周りは

三春まちづくり協会では、このほど皆さんの意見を聞き、まちづくりの問題点や改善点を見だし、まちづくりに役立てる目的で「まちづくりに関する町民意識調査」を実施いたしました。多くの皆さんにご協力をいただき、貴重なご意見やデータをいただくことができました。大変ありがたうございました。今回は、その調査結果をもとに特集を組みました。

配布(三春地区全戸) 二、〇六〇件
回収 一、二六九件
回収率 六一・六%

る地区は、住みやすいと思いますか』という設問に対しては、「住みやすい」と回答した人が全体の七七%あり(図2参照)、十年前の同様の質問に対する結果と比べてみると、十年前は七五%だったのに対し、今回のアンケート調査では二ポイント上昇という結果が出ています。

次に、『あなたは近所の人々とのようなおつきあいをしていますか』という設問に対しては、約半数の人が「時々世間話をする」と回

答し、また「お互いに訪問したり遊びに出かけたりする」と回答した人が二二%と、かなり親しいつきあいの程度も伺えますが、その一方で、「あいさつする程度」と回答した人が二八%あり、やや稀薄な面も出ています。

『あなたの隣組は、どのような活動を行っていますか』との設問は、「お花見など親睦会を定期的に行っている」という回答が二〇%あり、そのほかにも「清掃活動など行っている」という回答も一三%ありました。

高齢化社会を迎え、地域ネットワークづくりが課題となつていますが、このような関係をより発展していきたいものだと思います。

**お盆の花上げ
気持ち第一**

『お盆の花上げを簡素化しよう』という意見がいろいろありますが、どう思いますか』との設問に対しては、「簡素化したほうがよい」が六〇%、「いまのままでもよい」が三〇%、無回答が一〇%という結果が出ています。

この設問に対しては、二五〇件のご意見をいただきましたが、代表的な意見としては次のようなものがありました。

○賛成

- ・負担を感じながら花上げをするのであれば、思い切って簡素化してもよいのではないか。
- ・花の後始末が大変なので

今回のアンケート調査で、

簡素化に賛成である。心がこもっていれば、線香だけでも供養になると思う。

○現状のまま

- ・墓参りの最中に、なつかしい人や帰省中の人などに会ったりでき、今のままでよい。
- 個人の判断で
- ・個人の気持ちの問題なので、個人の判断に任せるべきである。
- ・形にとらわれずに気持ち優先第一に考えたい。
- ・この他、「お盆の花上げよりも、冠婚葬祭について簡素化を推進すべきではないか」といった意見も寄せられました。

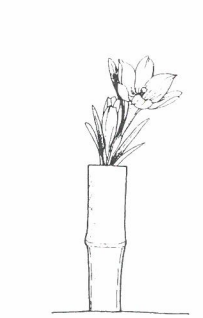
**ゴミ収集回数
増などの要望**

町では平成七年十月より本格的にゴミの分別収集を開始していますが、これに先立って行われた分別収集についての説明会については、「単に分別収集だけでなく、ごみに対する意識の高揚が図れたと思うので大変よかったと思う。また、若い世代に物の大切さを徹底させたい」という積極的な意見もありました。

今回のアンケート調査では、ごみ問題に関してのご意見が三三五件も寄せられましたので、その主なご意見を紹介したいと思います。

○集積所

- ・町内にいつでも資源ごみを出すことができる所があればよい。
- 収集方法
- ・資源ごみの収集を月一回から二回に増やしてほしい。
- ・保管場所の確保が大変なので、回収の回数を増やしてほしい。
- ・午前中に収集できるようにしてほしい。
- ごみ袋
- ・燃えないごみの袋が大きすぎる。小さいごみ袋があればよい。
- 分別方法
- ・分別を指導してくれる人がいればよい。
- ・分別が不徹底などところもある。分かりますく広報等に載せてほしい。
- ・町の分別収集も軌道にのって



▲資源回収を待つ空き缶

お盆の花上げについては六割の方が簡素化の必要性を感じていることが分かりました。確かに、お盆の花上げは経済的にも、また花などを運んだり各寺を回ったりする労力も大変で、長い間の慣習となつてきているとは言え、もう一度考えてみる必要がありそうです。その際大切なことは、何よりも各人の気持ちであることは間違いのないのではないのでしょうか。

まずは身近な医療の充実を 昔の風情あふれるまちに

都市基盤整備 に幅広い要望

『変わりつつある町の中心部の開発についてどう思いますか』の設問に対して、「期待している」と答えた人が三三%、「心配である」が三二%となっており、期待が大きい反面、不安もあるとの結果を示しています。

それではどのようなハード整備を考えるのかということになりますが、『三春町の都市基盤や施設の整備を進めていくにあたって、どのようなものが必要だと思



▲存続が決まった三春病院

多くの関心が寄せられていると言えらると思います。そのほかの選択肢についても、下水道をはじめとして町等で既に事業に着手しているものも少なくありませんが、「大規模な公園や緑地の整備」「各種のスポーツ・レクリエーション施設の整備」「駅周辺の整備」など、それぞれ五〇人を超える回答があり、都市基盤や施設整備にあたっての関心の高さと取り組むべき課題の範囲の広さを再認識させられる結果となっています。

城下町の良さ 残し活性化を

『これからの三春町をどういう町にしていきたいですか。あなたのイメージをお書きください』との設問に対し、実に四〇六件の回答がありました。

まず全体的なことさらにについての意見をみますと、「三春の城下町としてのよさ、自然のよさを残しながら活気ある町にしていきたいことが大切」で、その際「町民の協力を高めながら、焦らずに三春にしかできないものをつくりあげていく必要がある」との意見が多数を占めました。また、「老人を大切に」しながら「若者がとどまる町、魅力を感じて集まる町にしていきたい」という意見が目立ちます。

具体的な施設についての意見も多く、「地域の人々が利用できる公園や文化センター等の施設の整備・充実」

や「子供の遊び場やスポーツ施設」「コミュニティ施設の整備」を訴える意見が多く寄せられています。

これらのほか、「商工農それぞれの産業のバランスのとれた発展を図る必要がある」との意見も多く、特に商店街の活性化については、「先ず駐車場の整備が必要」との意見が目立ち、「大きなスーパーやショッピングセンターの整備」のほか、「専門店の充実」などを望む声が目を引きます。

これらのほか、主なご意見を紹介します。

○全体的な意見

- ・昔の面影を残しながら活気ある町に。
- ・城下町のよさをもっとアピールしたい。
- ・三春の場合、自然を破壊したら発展はない。
- ・三春にしかできないものを実行したい。
- ・緑あふれる静かな町。
- 住民参加
- ・子供が自分達で考え、行動し参加できるようなまちづくりを考えていきたい。
- ・老人を大切に、老人の住みやすい町に。
- ・一人ひとりの意見をまちづくりに反映できるように。
- 産業育成
- ・中小企業、工場誘致に力を入れて人口増加につながるようにして活気ある町にしたい。
- ・農業と共存できる町に。
- ・高齢化社会に対応できるまちづくりを望む。

地域交流拠点 施設整備望む

具体的な整備、商店街整備などについても、次のような意見がありました。

○具体的整備

- ・町のシンボルとなるような駅周辺の整備を。
- ・公園や文化センター等の施設整備が不十分。
- ・水害を無くし安心して住める町に。
- ・歩道、街路灯、ガードレールの整備を。
- ・文化施設を早急につくって、交流の多い町に。
- 中心市街地整備
- ・中心部を焦らずに整備して、よいものを。

・中心の開発整備を早く。

・無理に中心部を整備しないで、大きな道路をつくりそれにそった形で発展する町にしたら。

○商店街整備

- ・イベントなど多くして、もっと活気のある商店街に。
- ・三春町の商店街の物の値段が高く、郡山に流出している。
- ・大きなスーパーがもっとあればよい。
- ・商店街に駐車場の整備を。
- ・日常の買い物が町内で足りるような大型ショッピングセンターの整備を。
- ・日曜日に食事できるところがあってもよい。

今回のアンケート調査では、なかなか細かい部分までの質問等はスペース的にも限りがありできませんでしたが、今、三春町で課題となっていることと、それに対する関心の度合い、そしてどのような意見を持っている方が多いのか、などについては概括的ながらはつきりさせることができたのではないかと思います。

引き続き今回の結果などを参考にしながら、当協会でも地域の方々のご意見をお聞きしながら活動していきたいものだと思います。また関係機関におかれまして、是非参考としていただければ幸いです。

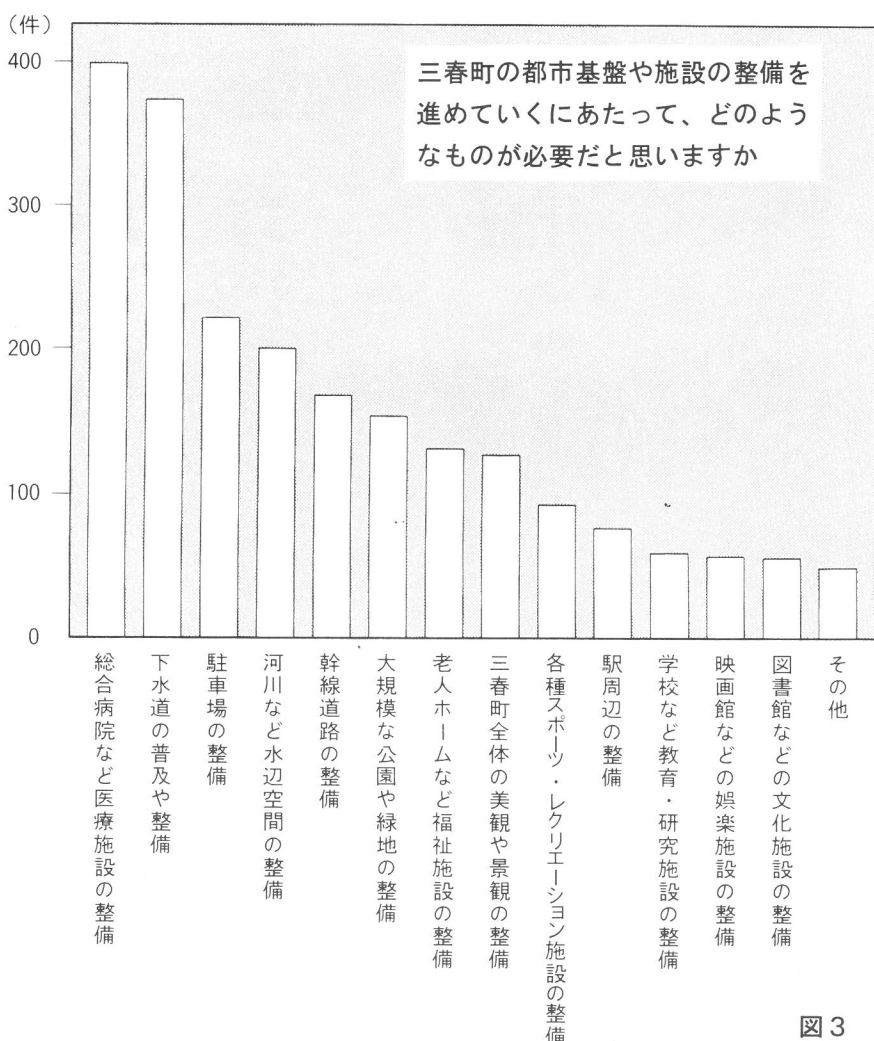
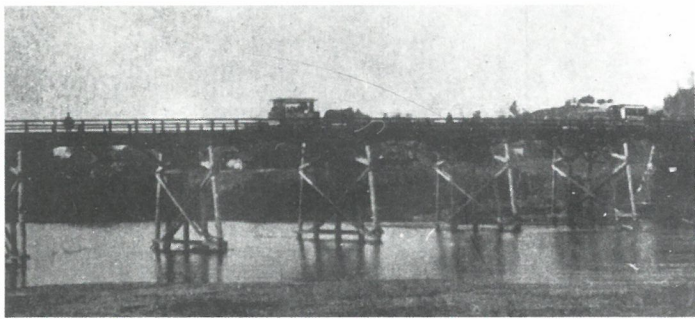


図3

ふるさと再発見

三春馬車鉄道

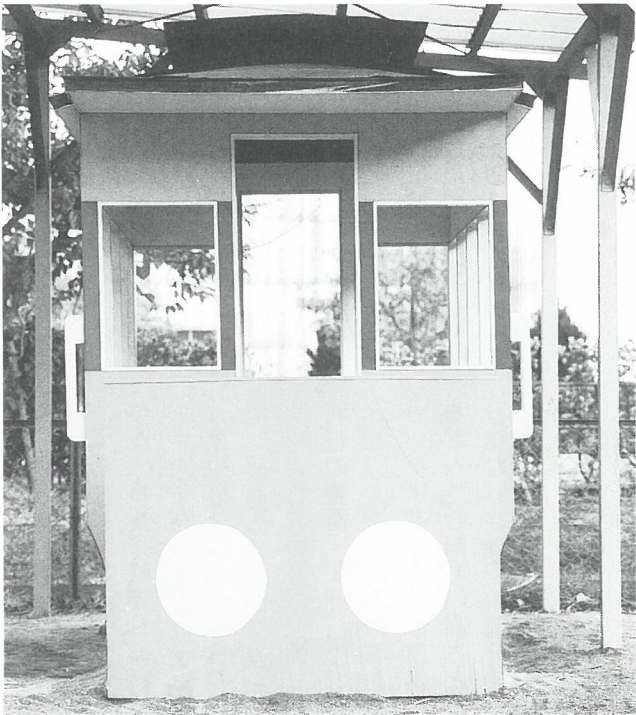


▲当時の馬車鉄道

明治生まれの人が、懐かしそう乗物に、馬車鉄道があります。皆さんは、中町のヨークベニマル駐車場にある、三春馬車鉄道の記念碑を目にしたことはありませんか。

明治二十四年の創立から、大正四年までの二十五年の間、郡山と三春の間をラッパを吹きながら、トテ馬車が走っていたなんて、考えただけでもどかさが感じられません。

この馬車鉄道は、人を八から十人乗せた車を、馬がレールの上を牽いた馬車で、料金は大人八銭、小人四銭で、一日に四往復走っていました。



▲馬車鉄道の現在の姿

たということですが、三春のまゆ市場より、山田、小泉を経て、郡山の中心部まで、馬にとっては大変長旅だったと思います。

秋晴れの日曜日、郡山歴史資料館を訪ねて、修復された馬車の実物を見てきました。思ったよりも小さく、タクシーの大型といった感じでした。

三春の歴史民俗資料館では、阿武隈川の上に架けられた小泉の橋の上を走る馬車鉄道の写真がありました。ちよっと不鮮明ですが、木の橋梁の上を、二台の馬車がトコトコ走っている様子がうかがえます。

この懐かしい馬車鉄道は、大正三年に郡山から三春まで開通した平郡線（現在の磐越東線）によって、その姿を消していったそうです。

ところで、皆さんは、この馬車が現在も三春で活躍していることを存じでしょうか。それは、担橋の第一保育所の庭に屋根をかけられ、子供達の遊び道具になっています。今ではカラフルにペイントされているため、八十年以上も前に活躍した馬車鉄道だとは思えない状態ですが、郡山の資料館とここにしか残っていない貴重な文化遺産です。資料館の中でも、もの形で保存することも必要ですが、私には、子供達の遊び道具としてみんなに親しまれている馬車のほうが、幸せに思えます。ただし、この馬車の生い立ちや貴重な文化財だということが、あまり知られていないようなのが残念です。



▲園児とのふれあいに笑顔がこぼれます

お城山の南側のふもとに、四階建のすばらしい施設が出来上りました。

昨年九月一日に開館した三春町福祉会館です。

毎日、たくさんのお年寄りが、二階の高齢者生活センターで生き生きと楽しく過ごしております。

ここは、介護を必要とするお年寄りも、健康なお年寄りも、共に集い、助け合い、楽しみ合う、ふれあいの広場です。

この日は、三春幼稚園の可愛い園児達が、会館を訪問し、お年寄りと微笑ましい交流をすることができました。真剣に肩をたたく園児達です。

部会だより

〔生活部会〕

生活部会の七年度の事業として、七つの各種スポーツ団体への用具のプレゼントを実施しました。

バレーボール、サッカーボール、ソフトボール他など、満足する数はあげられませんが、皆に喜んでいただきました。



▲三春バレーボールの皆さん

〔環境部会〕

環境部会では、ゴミ問題に目を向け取り組んでいます。そんな中、初の試みとして「三春クリーン空き缶積み大会・生活アイデア展」を開きました。

参加者も趣向を凝らし、楽しく、真剣に挑戦しました。



▲空き缶積み挑戦する小学生チーム

〔街並部会〕



▲熱心に聞いている「新春講演会」

「夢・個性・どう生きる三春びと」―首都機能がやってくる―と題し、福島大学教授の下平尾勲先生の講演会を商工会と合同で開催しました。一人ひとり何か得るものがあつたのではないかと思います。

〔老人福祉部会〕



▲話がはずむふれあいの集い(荒町)

老人福祉部会では、毎年恒例の七十歳以上を対象にした「ふれあいの集い」を実施しております。

各字ごとに歌やゲーム、健康に関するビデオ観賞、食事など盛り沢山で楽しいひとときを過ごすことができました。

〔土地利用部会〕

土地利用部会では、下水道事業、西部区画整理事業、仁井町地区住宅開発、街路事業について、現地見学会を実施し、また都市整備課長より、町としての今後の事業の進め方について勉強会を持ちました。



▲意見活発な勉強会

編集後記

今回の十九号は、諸般の事情により発行が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。

どうぞ皆様のご意見をお寄せください。(嶋原)

今回の特集にあたり、十年ぶりの大規模なアンケートを実施したところ、お忙しい中、多数の皆様のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。

(永井)

コミュニティだより
「三春わが街」第十九号
発行日 平成八年四月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報委員会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八